

目的 青春期女子の塩味に対する嗜好性が、この10年余にどのように変化してきたかを調査するとともに、被検者の塩味嗜好性が、その塩味感受性とどのように関係あるかについて、官能検査により検討した。

方法 1968年～81年の13年間の3時期に、各女子短大生の食味嗜好調査を行い、これらを演者ら提案の「食味嗜好指数」を用いて、甘党、酸党、塩党の3群に分類し、これらの時代的変遷を検討した。またこのPanelにより、塩味、甘味液に対する官能検査を行なって、塩味嗜好者と塩味および甘味感受覚との間の関係を調べた。

- 結果 (1) 過去10数年間に強度の塩味嗜好者は、強度の甘、酸味嗜好者と同様に減少し、一般にマイルドな食味を好む傾向が生じてきた。
- (2) このような食味嗜好性の強弱程度を解析するには、嗜好比に基づく「嗜好指数」が好適な尺度として用い得られる。
- (3) 甘—塩比における甘党は、塩味閾値に対して敏で、塩党は鈍であるのに対し、甘味閾値に対しては、甘党は鈍、塩党は敏であった。
- (4) また、甘—酸比における甘党は、塩味閾値に対して敏、酸党は敏であるのに対し、甘味閾値では甘党は鈍、酸党は敏であった。
- (5) これらのことから、甘—塩比、甘—酸比における甘党と、塩党、酸党の関係は類似しており、従って、塩味嗜好者と酸味嗜好者とは比較的近縁な関係にあるものと思われる。